

## 緩和ケア施設

# さとわ

No.2

### 緩和ケア施設「郷和」理念

- 1.豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
- 2.その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
- 3.その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

## 郷和の3年とこれから

施設長 桜井 金三

緩和ケア施設「郷和」も昨年8月で丸3年を迎える事ができました。近隣市町村の患者様を中心に県外からも利用していただき、3年で200名を超える方からご利用いただきました。この3年のケアを振り返ることを目的にして、遺族アンケートを行いました。

その結果は全体としては、かなり満足していただけたことがわかりました。このことはスタッフ一同日々ごの努力が報われる想いで、大変うれしく思っています。しかし、やや満足度の低かった、入院の参考になる情報の入手のしやすさや、痛み以外の症状緩和については今後改善していくべき課題です。「郷和」へこられる患者様も近隣市町村から徐々に広がってきておりますが、いろいろな媒体を駆使して今後とも「郷和」の存在をアピールしていきたいと考えています。家族への配慮は、患者様のケア

と同時にやるべきものと考えて取り組んできたつもりでしたが、なおいっそう細やかな配慮を持って取り組んでいきたいと考えています。症状緩和については、痛みの緩和はかなりの結果を出してきたと考えておりますが、終末期特有の身の置き所のなさや倦怠感はいずれの大きな課題です。試行錯誤になるとは思われますが、全力で努力していきたいと考えています。

この3年は施設内の緩和ケアを軌道に乗せるため精一杯で、在宅ケアにはあまり取り組めませんでした。最後まで家で過ごされたのは3名の方にすぎません。しかしできるだけ家で過ごしたいというご希望は大勢の方がお持ちです。これからはもっと在宅ケアにも取り組んで、患者様の期待に応えたいと考えています。

## 「郷和」との出会い

ご家族 丸山 明美

三度目の抗がん剤治療を終え、一時帰宅している時だった。あまりにも衰弱している主人に向かって、「ねえ、ホスピスってどんな所か行ってみようか」と問いかけた私に「うん」という一言が返ってきた。それからすぐ、30分のドライブの後着いた所が、私達夫婦の初めての「郷和」との出会いだった。

半年間の闘病生活で肉体的に、又精神的にも疲れきっていた主人は、病院とは違い何とも言えない時間が止まったような空間は、居心地の良い所で安らぐし、「ここでなら死んでもいいな」とつぶやいた。その言葉に涙をこらえるのに必死だったのを思い出す。49歳の主人が、自分の死を自覚してここに来るには、どんなことを考えて、病院の生活を耐えてきたのだろう。主人は子供達の成長を一番の楽しみにしていただけに、「子供をたのむ」と言われた時は、一番辛かった。でも、「郷和」での40日間は、とても元気に又、生き返ったように本来の明るさを取り戻し、職員の皆さんのやさしさにふれ、又一日を自由に使える事が楽しみでとにかく二人で毎日出かけた。痛み止めを使い、外出できたことは今も思い出に残っている。

いつも病室には主人の好きな音楽が流れていた。夏ということもあって、ハワイアンが多かった。いろんな思い出を残して、最後に「眠るように逝った」主人の一日一日を大切に生きてきた姿は、私と子供にとって、一生忘れる事が出来ません。そして、その最後の場所を選んだ私達に心残りはありません。

大変御世話になった郷和の皆さんありがとうございました。



## ボランティアの勇気をくれたSさん

ボランティア 五十嵐 ノリ子

「郷和のボランティア講座」を受けてみませんか？という誘いに何気なく受けた講座でしたが、回を重ねるにつれボランティアの難しさを痛感していきました。

話し下手な自分が患者様の心の中に入っていくことができるだろうかと思いつつも自分のできる範囲でお手伝いしようとボランティアの仲間に入れていただきました。

初めてのボランティアを明日に控え不安でいっぱいでしたが、ふと思いついた広告紙を利用した箱をいくつか作って、当日持っていきお茶を飲みにお出でになる憩いの間のテーブルの上に置いてみました。それを見たSさんから「自分も覚えたいから教えて欲しい」と言われ、それまで緊張していた気持ちが急にほぐれていくのを感じました。それ以来月に一度のボランティアを通して一緒に箱を作ったり、お話しをしたり、「又来てネ」という言葉に励まされ自分自身も楽しみでした。でも次第に憩いの間にもお姿を見ることがなくなり、お部屋にお茶をお持ちしてはそっとテーブルのうえに置いてくるだけの私でした。でも、そこには苦しくとも一生懸命頑張っている姿を見ることができたのです。

ボランティアを始めて一年半余り、今は曜日を決めて月二回程度の活動です。まだまだ患者様との心の結びつきは難しく挨拶だけで終わることも多いのですが、病院スタッフの方々に色々ご指導いただきながら何時の日か心の扉をノックできればいいなあという思いで続けています。



## 施設行事



郷和では毎年新そばの時期になるとボランティアの方が、そばを打ちに来て下さいます。今年も好評でした。患者様の笑顔が見られるので、スタッフも楽しみにしています。

薬剤師になって早いもので二十数年、調剤が主だった時代から病棟へと、チーム医療の担い手としての役割に試行錯誤を繰り返し、今も走り続けています。(多少息切れがする今日この頃...) 「緩和ケア」という新しい分野に携わる事になってからは、合同カンファレンスへの参加・薬の説明・スタッフへの情報提供を通じて、苦痛を緩和する手段の中でも薬物療法は重要な位置にあると

痛感しています。

そのためにも、ただ、「この薬は〇〇の薬です。眠くなることがあります。」だけではなく、限られた時間のなかで患者様が有意義に過ごすことが出来るよう、何を訴えているのかを察することの出来るよう、今後は、郷和の研修会にも参加し、「チーム」の一員として一人一人を支えていくお手伝いが出来ればと願っています。

### 編集後記

昨年10月、新潟県の中越地域は、大きな地震にみまわれました。当施設は被害はありませんでしたが、県内では多くの方々が被災され、いまだに落ち着かない日々を過ごされておられます。

今回の地震には南部郷厚生病院をはじめ関連3病院で延べ45名の看護師がボランティアとして派遣されましたが各地よりボランティアの方々が物質面、精神面で大きな力となり支えになったと感謝されています。当施設でもボランティアの存在は大きく、今後もチームの一員として郷和を盛り立ててくれるものと期待しています。

私達スタッフも力を合わせ、地域に根ざした施設として更に信頼されるよう努力していきたいと思えます。

### 「郷和」利用状況

(H.15年4月～H.16年3月)

入院患者数	81名
一日平均入院利用者数	10.5名
平均病床利用率	51.9%
平均在院日数	51日

編集・発行 南部郷厚生病院 併設  
緩和ケア施設「郷和」

〒959-1704 新潟県中蒲原郡村松町甲2925-2  
TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300